

「ツール・ド・しまなみ」開催およびホテル建設 による経済波及効果について

小谷 範人¹・濱本 義樹²・尾道大学サイクリング部有志 5 人³

本稿では、尾道市と愛媛県今治市を結ぶしまなみ海道高速道路等を使用して行う自転車イベント「ツール・ド・しまなみ」を開催した場合の経済波及効果について、「平成17年広島県産業連関表経済波及効果分析ツール」を用いて数量的に試算した。本大会が地元には、大会参加者観客の地元消費がもたらす経済波及効果と、大会事業運営費の地元発注分および施設整備がもたらす経済波及効果とがあり、この3つの経済波及効果の合計は8億6百万円となった。

また、「ツール・ド・しまなみ」を開催した場合、市内の宿泊施設では参加者を収容できないため、尾道市に新たにホテルを建設してはどうかとの意見があり、ホテル建設が地元には、ホテル建設およびホテル開業・運営に伴う経済波及効果があり、この2つの経済波及効果の合計は80億85百万円となった。⁴

キーワード：経済波及効果、産業連関表、直接効果、生産誘発額、一次波及効果、二次波及効果、粗付加価値誘発額、雇用誘発効果、産業別経済波及効果

目 次

1. はじめに
2. 経済波及効果試算の方法
3. 「ツール・ド・しまなみ」開催が地元には、経済効果
4. 新たにホテルを建設した場合の経済波及効果
5. おわりに

1 経済情報学部教授

2 尾道サイクリング協会理事長

3 尾道大学サイクリング部有志生（経済情報学部2008年度生）有志：西岡進（部長、小谷ゼミ生）、金守剛志、溜谷明華、中山慧

4 本稿の経済波及効果試算において、広島県企画振興局政策企画部統計課分析グループ主任中畝康裕氏には、同分析ツール使用の仕方や経済波及効果の考え方などについて種々ご指導を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。

1. はじめに

尾道市と愛媛県今治市を結ぶしまなみ海道⁵は、平成11年に開通した風光明媚な芸予諸島6島を島伝いにつなぐ自動車専用的高速道路であるが、海峡部の橋梁（橋）には自転車・歩行者・バイク専用道も併設されている。しまなみ海道開通以降、6島の一般道路と橋梁部の自転車道を利用するしまなみ海道サイクリング道路の整備が進んでおり、瀬戸内に浮かぶ表情豊かな島々を満喫しながら走れ、なおかつ海の上を自転車で渡ることができる珍しい道路であることから、サイクリスト、自転車愛好家には、特に人気の高いルートとなっており、地元民だけでなく遠方からの自転車旅行者が目立つようになっている⁶。

本稿では、「ツール・ド・フランス」⁷ならぬ、全長59.4kmの高速道路部分を開放し、海外の自転車レーサーを招待しての国際ロードレース、そして市民ロードレースおよびクリテリウムと呼ばれる市街地自転車レース（宇都宮クリテリウムを参照）等5カテゴリーからなる「ツール・ド・しまなみ」を開催した場合の経済波及効果について試算した⁸。

また、「ツール・ド・しまなみ」を開催した場合、尾道市内のホテルでは競技者や観客を収容できないことから、新たにホテルを建設した場合の経済波及効果についても試算した。

なお、本件のきっかけは、昨年4月に尾道大学サイクリング部が発足した際、尾道サイクリング協会にお世話になり、以降両者の交流が始まったが、昨年10月に尾道サイクリング協会濱本理事長より、尾道大学で「ツール・ド・しまなみ」を開催した場合およびホテルを建設した場合の経済波及効果について試算して欲しいとの依頼があったことによる。

2. 経済波及効果試算の方法

(1) 経済波及効果とは

大型のイベントや公共投資があると、新たな需要が生まれ、地元におけるさまざまな生産活動を誘発するが、その数字を推計したものを経済波及効果と呼ぶ。

例えば、「ツール・ド・しまなみ」の場合、選手・監督・観客など来場者の消費支出（宿泊費や飲食費などの地元消費分）に加え、パンフレットの類の印刷、案内板の設置などの地元発注分大会運営費のほか、競技施設（しまなみ海道高速道路）整備にかかる費用が直接効果である。

これら来場者消費支出、大会運営費、競技施設整備により、製品・原材料の地元における

5 「しまなみ海道」は愛称であり、正式名称は本州四国連絡道路「西瀬戸自動車道」である。

6 日本経済新聞の2008年8月28日付記事「何でもランキング「おすすめのサイクリングコース」では瀬戸内海横断自転車道（しまなみ海道サイクリング道路）が全国1位にランキングされた。

7 「Le Tour de France」は、毎年7月にフランスおよび周辺国を舞台にして行われる自転車プロロードレースであり、1903年から開催されている。

8 本来は、しまなみ海道高速道路を使用しての自転車イベントを「ツール・ド・しまなみ」と称するが、本稿では、クリテリウム等付随競技を含むイベントを「ツール・ド・しまなみ」として経済効果を試算した。

生産活動が引き起こされる（一次波及効果）。

そして、製造業、サービス業などの雇用者所得が誘発され、その誘発分の一部が消費に回ることによって、さらなる地元の生産活動が引き起こされる（二次波及効果）。

この循環は、その後、第三次、第四次・・・と、規模を収縮しながら繰り返されるが、一般的に経済波及効果という場合は、直接効果と一次・二次波及効果の3つを合計した数字をさすことが多い⁹。

（2）産業連関表を用いた経済波及効果の推計

経済波及効果は、産業連関表を使用して試算（推計）できる。私たちの日常生活においては、家計と産業および産業間相互は、取引を通じて密接な依存関係にあり、産業連関表は、経済活動の様子を、一目でわかるように一覧表にまとめたものである。対象期間は通常1年間で、一定地域の経済活動に限定される。

「ツール・ド・しまなみ」を開催した場合の経済波及効果は、尾道市を中心とする経済取引をすべて金額に換算して表示した統計表である産業連関表がないため、「平成17年広島県産業連関表経済波及効果分析ツール」を用いて試算した。したがって、広島県と尾道市の産業投入比率は同じという前提で試算している。

3. 「ツール・ド・しまなみ」開催が地元 に及ぼす経済波及効果

「ツール・ド・しまなみ」開催が地元におよぼす経済波及効果には、大会参加者と観客の地元消費がもたらす経済波及効果と、大会事業運営費の地元発注分および施設整備がもたらす経済波及効果とがある。この3つの経済波及効果の合計が、「ツール・ド・しまなみ」開催による経済波及効果の総額となり、推計の結果、経済波及効果は8億6百万円となった。

図表1 「ツール・ド・しまなみ」開催がもたらす経済波及効果

（単位：百万円、人）

	大会参加者、観客 の消費がもたらす 経済効果	開催運営に伴う経 済効果	施設整備に伴う経 済効果	合計
直接効果	450.0	48.8	7.7	506.5
生産誘発効果	263.4	30.6	5.4	299.4
一次波及効果	157.8	18.3	3.2	179.3
二次波及効果	105.6	12.3	2.2	120.1
経済波及効果	713.4	79.4	13.1	805.9
粗付加価値誘発額	431.0	46.5	7.0	484.5
雇用誘発者数	68	5	1	74

9 直接効果が需要面での支出額とすれば、経済波及効果は供給面での生産額ということができる〔原田（2002）〕。

粗付加価値誘発額は484.5百万円で、これは尾道市の平成19年度総生産額574,497百万円の0.08%に相当する。また、雇用誘発効果として、74人の雇用者が誘発される結果が得られた。

(1) 大会参加者、観客の消費がもたらす経済波及効果

大会参加者、観客の消費がもたらす経済波及効果試算の前提条件として、下記を想定した。

- ①開催期間は土・日の2日間、レースは国際ロードレース、市民レース¹⁰等5レースとした。
- ②予想来場者数は、競技参加者が5千人、観客は100千人とした。
- ③来場者1人当たり消費支出額は、宿泊客20,000円、日帰り者4,000円と想定した。

この結果、競技参加者および観光客の地元消費額を含む直接効果は日帰り者、宿泊者を含め、628百万円となった（図表2）。

図表2 競技参加者および観光客消費支出額試算

1) 予想来場者数

(単位：人)

	競技参加者		観客		合計
	1日目	2日目	1日目	2日目	
宿泊者人数	1,500	1,500	5,000	5,000	13,000
日帰り人数	1,000	1,000	45,000	45,000	92,000
合計	2,500	2,500	50,000	50,000	105,000

2) 来場者1人当たり消費支出額

(1日当たり)

(単位：円)

	交通費	宿泊費	飲食費	土産物代・買い物代等	その他	消費支出額合計
宿泊者	6,000	7,000	4,000	2,000	1,000	20,000
日帰り者	1,000	0	1,500	1,000	500	4,000

来場者1人当たり消費支出額は、観光庁「平成22年4～6月期 都道府県別、観光人込客数（実）、観光消費額単価、観光消費額（観光目的）」の広島県の「1人当たり県内宿泊・日帰り、県外宿泊・日帰り金額」を参考に、1日当たり、宿泊者20,000円、日帰り者4,000円と想定した。

3) 来場者消費支出額

(単位：円)

	交通費	宿泊費	飲食費	土産物代・買い物代等	その他	消費支出額合計
宿泊者	78,000,000	91,000,000	52,000,000	26,000,000	13,000,000	260,000,000
日帰り者	92,000,000	0	138,000,000	92,000,000	46,000,000	368,000,000
合計	170,000,000	91,000,000	190,000,000	118,000,000	59,000,000	628,000,000

(参考)

尾道みなと祭（平成22年）動員数：34万人。おのみち住吉花火大会（平成22年）動員数：35万人。

尾道市訪問観光客総数（平成21年）：5,849,334人。内宿泊客数：360,844人。

10 テクノトリムと呼ばれる、プロ自転車競技者やシニア・ジュニア参加者による市内一般道（海岸通り等）を周回する市民レースを4レース想定している。

次に、地元消費分の経済波及効果を算出するために、「平成17年広島県産業連関表経済波及効果分析ツール」の「観光消費支出額推計シート」に需要増加額を該当する産業部門に入力して波及効果を求めた¹¹。その結果、直接効果として450.0百万円、そして生産誘発効果の内の一次波及効果が157.8百万円、二次波及効果が105.6百万円、合計の経済波及額は713.4百万円となった。粗付加価値誘発額は431百万円で、これは尾道市の平成19年度総生産額574,497百万円の0.075%に相当する。また、雇用誘発効果で68人の新規雇用者が発生する。

(図表3) 日本のサイクリング競技大会の事例

第23回「ツール・ド・おきなわ2010」競技参加者(定員)

<国際ロードレース大会>		名	<市民レース部門>		名
男子チャンピオンレース210km	100		市民レース210km	430	
名護まちなかタイムトライアル	100		市民レース140km	400	
女子国際ロードレース100km	100		市民レース100km	400	
ジュニア国際レース140km	60		市民レース50km	300	
	計	360	市民レース40km	200	
			市民レディース50km	100	
<サイクリング部門>		名	シニアレース50km	450	
沖縄本島一周サイクリング(1泊2日)323km	480		中学生レース50km	30	
やんばるセンチュリーライド189km	300		小学生レース5km	30	
チャレンジサイクリング100km	250			計	2,340
伊平屋島サイクリング(1泊2日)76km	100				
伊是名島体験サイクリング(1泊2日)56km	100				
伊江島ファミリーサイクリング50km	100				
恩納村ファミリーサイクリング70km	220				
バリアフリーサイクリング	20				
ロードレース観戦バスツアー	40				
	計	1,610		合計	4,310

「しまなみアイランドライド2010」

競技参加者(エントリー数)

水軍200	569
多々羅130	544
くるしま90	342
ガイドツアー60	149
	名
合計	1,604

第24回「ツール・ド・北海道2010」

競技参加者(定員)

個人タイムトライアル1.1km	300
ロードレース96km、50km	500
クリテリウム	300
	名
合計	1,100

(2) 開催運営に伴う経済波及効果

開催運営に伴う経済効果試算の前提条件として、開催運営費は、1レースにおける役員、招待選手の交通費・宿泊費、事務局経費等の合計額10,216千円の5倍(5レース)の51,028千円とした(競技者1人当たり約10千円)。

11 消費転換率として、平成20年中国地方消費転換率0.607471を選択して入力した。消費転換率=消費支出/実収入(家計調査年報による)

開催運営に伴う経済波及効果を求めるために、需要増加額（各費用項目）をそれぞれの産業区分に仕分けし¹²、分析ツールの「観光消費支出額推計シート」の各部門に県内産需要として最終需要増加額を入力し、生産誘発額を求めた。その結果、直接効果として49百万円、生産誘発効果の一次波及効果が18.5百万円、二次波及効果が12.5百万円、合計の経済波及効果額は80百万円という結果が得られた。

(図表4) ツール・ド・しまなみ開催運営費概算案

2011年4月1日

項目	明細	備考	金額 (円)
通信費	封筒＋封筒印刷代		10,000
	スタッフ案内、資料発送（鈴鹿・広島間）	協賛など	6,000
	宛名シール、印刷		3,000
交通費	県内役員日当・交通費	競技審判50名	750,000
		地元役員200名	600,000
	県外役員交通費（本部派遣他）	20名	805,000
	招待選手交通費・謝礼など	5名程度	375,000
		MC	100,000
宿泊費	役員宿泊費		630,000
飲食費	前日設営弁当代、飲料		50,000
	朝弁当代(70名)		31,500
	昼弁当代(270名)		270,000
	飲料水（スタッフ用）		200,000
	補給食（com用）		20,000
借損費	トラック、バイク、審判車両	バイク15、車15 ワゴン緊急車両他	300,000
消耗品費	コピー用紙 バンフ袋、ガソリン、医薬品		200,000
	プリンタインク・トナー		50,000
	ブラタイ		12,000
	ゼッケン		127,500
	フレームNO. プレート		20,000
	安全ピン		1,500
	IDカード		40,500
印刷費	賞状、リザルト他		2,000
	当日プログラム		280,000
救護費	医師/看護師(ドーピング除く)		80,000
設営費	会場設営費（テント、仮設トイレ、パイロン運搬）		1,500,000
	電話工事（またはメール通信費）		12,000
運営費	ステージ背面板カッティングシート		80,000
	マビックサポート一式	(人件費込)	300,000
	警備外部委託		47,250
	シマノサポート	人件費、車両借損費	60,000
	保険1700×人数	スタッフ含む	170,000
	業務無線	レンタル	300,000
	スタッフシャツ・帽子		769,500
	シャンパン		8,000
	レンタカー	3台	43,500
	ステージ		300,000
	放送		350,000
	看板（補給所、掲示板）	レンタル	20,000
	トランシーバー	レンタル	70,000
	機材補充	電池、テント、横 幕、ケーブルリール	250,000
事務局経費	事務局費用		-
参加賞（記念品）			-
計測チップ	計測タグレンタル	マトリックス	239,750
計測データ登録・作業一式			200,000
チェック用受信機	レンタル		31,500
メダル	1～3位 5種目		29,190
トロフィー			20,000
副賞		協賛品	
予備費 雑費	道路使用申請（警察署）費用1千円を含む		451,000
合計			10,215,690

12 事務局がレンタル業者から調達するものは「対事業所サービス」、直接品物を購入するものはそれぞれの部門に計上した。招待選手等の交通費のうち、国際航空運賃は対象外とした。

(3) 施設整備に伴う経済波及効果

ツール・ド・しまなみの国際ロードレースは既存のしまなみ海道高速道路を使用するため、新たな施設整備費用は下記を想定した。

しまなみ海道高速道路には25カ所の継ぎ目があり、レースを行うためには、継ぎ目を5mmのゴムを2枚重ねてふさぐ必要がある。また、この工事を行うためには、交通規制を行う必要がある。

①工事の時間を6時間とした想定した場合の費用試算。

1日の平均通行料収入¹³ 28,570千円

$28,570 \times 1 / 4 =$ 7,143千円

②人件費

作業員2人＋ガードマン 100千円

ゴム部品@10,000円×50 500千円 費用計 7,743千円

上記で求めた施設整備費用7,743千円を、「大規模建設プロジェクトによる波及効果分析ツール」の事業分類「道路補修」に、最終需要増加額内訳・工事費として入力し経済波及効果を求めた。その結果、直接効果として7.7百万円、生産誘発効果の一次波及効果が3.2百万円、二次波及効果が2.2百万円、合計の経済波及効果額は13.1百万円となった。

(4) 産業別に見た経済波及効果

ツール・ド・しまなみ開催の大会参加者、観客の消費がもたらす経済波及効果、開催運営に伴う経済波及効果、施設整備に伴う経済波及効果を産業別にみた合計額は図表5の通りであり、「サービス業」や「運輸業」、「商業」、「製造業」等を中心に波及している。

(図表5) 産業別の経済波及効果

(単位：百万円)

分類 NO	産業項目	生産誘発額			合計
		直接効果	一次効果	二次効果	
01	農林水産業	4.0	4.7	1.6	10.3
02	鉱業	0.0	0.1	0.0	0.1
03	製造業	30.2	25.7	8.6	64.5
04	建設業	7.7	4.1	1.5	13.4
05	電力・ガス・水道業	0.0	14.3	5.2	19.5
06	商業	29.7	22.1	15.2	67.0
07	金融・保険・不動産	15.1	26.9	42.4	84.4
08	運輸	106.2	23.2	7.2	136.6
09	情報通信	3.7	13.6	7.5	24.7
10	公務	0.0	0.2	0.4	0.6
11	サービス	308.9	40.9	29.6	379.4
12	分類不明・その他	1.0	3.4	0.9	5.3
合 計		506.5	179.3	120.1	805.9

13 1日の平均通行料収入は、本州四国連絡高速道路（株）の資料を基に算定。

4. 新たにホテルを建設した場合の経済波及効果

(1) 新ホテル建設の背景と経済波及効果

尾道市にあるホテルの収容人数は約1,000人である。このため、「ツール・ド・しまなみ」を開催した場合、現在あるホテルでは競技参加者等の収容ができないことが予想されるため¹⁴、将来的に新たなホテルの建設が求められる。このような背景から本章では、新たにホテルを建設した場合の経済波及効果を試算した。

尾道市に新たにホテルを建設した場合地元には、ホテル建設およびホテル開業・運営に伴う経済波及効果がある。この2つの経済波及効果が、ホテル建設による経済波及効果の総額となり、推計の結果、経済波及効果は80億85百万円となった。

粗付加価値誘発額は4,354.6百万円で、これは尾道市の平成19年度総生産額574,497百万円の0.76%に相当する。また、雇用誘発効果として、624人の雇用者が誘発される結果が得られた（図表6）。

(2) ホテル建設に伴う経済波及効果

新ホテルは、客室180室¹⁵、宿泊収容人数260人、レストラン・コーヒーラウンジ・バー、エステ施設等を装備したリゾートタイプのホテルを構想した。また、ホテル建設工事費22億円、設備工事12億円¹⁶、什器備品費8億円（内訳は図表7¹⁷）など、合計で42億円の需要が発生すると想定した。

（図表6）ホテル建設に伴う経済波及効果

（単位：百万円、人）

	ホテル建設に伴う 経済効果	ホテル開業・運営 に伴う経済効果	合計
直接効果	3,852.3	948.8	4,801.1
生産誘発効果	2,744.9	538.6	3,283.5
一次波及効果	1,683.3	318.0	2,001.3
二次波及効果	1,061.6	220.6	1,282.2
経済波及効果	6,597.2	1,487.4	8,084.6
粗付加価値誘発額	3,450.0	904.6	4,354.6
雇用誘発者数	447	177	624

14 2010年10月に「しまなみアイランドライド2010」を開催した時、1,600人のエントリーがあり、600人しか旧尾道市に宿泊できなかったため、三原市に100人、福山市に250人、尾道市因島町（含今治市）に50人が宿泊したと推定されている。

15 シングルルーム80室、ダブルルーム20室、ツインルーム80室の合計180室。

16 レジャー関係など100の業種について事業収支シュミレーション等を掲載している『最新レジャー100業種モデルプラン集、第1巻』（総合ユニコム2006）に「ホテル系事業」を扱っており、シティホテル等の初期投資モデルを掲載している。これによると、「地方中核都市に立地するシティホテル（延べ床面積1万3,500㎡、客室規模180室、宿泊人数260人、レストラン・コーヒーラウンジ・バーをフル装備）の場合、建築工事費は2,193,750千円、設備工事費1,181,250千円、什器備品費675,000千円などが含まれ、初期投資総額は4,437,854千円となります。」とあり、本稿の建設工事費、設備工事費は同書に記載された工事費を参考にして試算した。なお、尾道市内の建築設計事務所にヒアリングしたところ、50ベッドのホテルの建設工事費は約10億円とのことであった。

17 エステ設備一式費用12,575,000円は、エステ運営を外部委託するため計上しない。

(図表7) リゾートタイプホテルを建設した場合の建設費試算

客室180室、宿泊収容人数260人、レストラン・コーヒーラウンジ・バー、エステ施設等を装備

(単位：室)

シングルルーム	80
ダブルルーム	20
ツインルーム	80
合計	180

(単位：円)

建設工事費	2,200,000,000
設備工事費	1,200,000,000
什器備品費	800,000,000
合計	4,200,000,000

< 什器備品費内訳 >

(単位：円)

客室備品類	
まくら、シーツ、毛布類	5,300,000
テレビ	18,000,000
冷蔵庫	9,000,000
防火用じゅうたん、カーペット	90,000,000
小計	122,300,000
コーヒーラウンジ・バー備品類	
食器類	5,000,000
ガスこんろ、湯沸かし器、調理用器具	5,000,000
冷凍機、冷凍・冷蔵用ショーケース、ウォータークーラー、製氷装置	20,000,000
小計	30,000,000
家具・装備品	647,700,000
什器備品費合計	800,000,000

ホテル建設に伴う経済波及効果を求めるために、分析ツールの「企業誘致による波及効果シート」に、ホテル建設に伴う需要増加額を該当する産業部門に入力して波及効果を求めた。その結果、直接効果として2,744.9百万円、そして生産誘発効果のうちの一次波及効果が1,683.3百万円、二次波及効果が1,061.6百万円、合計の経済波及効果は6,597.2百万円となった。粗付加価値誘発額は3,450百万円で、これは尾道市の平成19年度総生産額547,497百万円の0.63%に相当する。また、雇用誘発効果で447人の新規雇用が発生する（図表6）。

(3) ホテル開業・運営に伴う経済波及効果

ホテル開業後の営業収入は、宿泊費650百万円、レストラン・土産品売り上げ需要189百万円、エステ収入額110百万円、合計949百万円と想定した（図表8）。

ホテル開業・運営に伴う経済波及効果を求めるため、分析ツールの「需要拡大による波及

効果シート」の「対個人サービス部門」に需要額を入力して波及効果を求めた。その結果、直接効果として538.6百万円、そして生産誘発効果のうちの一次波及効果が318百万円、二次波及効果が220.6百万円、合計の経済波及効果は1,487.4百万円となった。粗付加価値誘発額は904.6百万円で、これは尾道市の平成19年度総生産額547,497百万円の0.17%に相当する。また、雇用誘発効果で177人の新規雇用が発生する（図表6）。

（図表8）ホテル開業後の営業収入試算

（単位：円）

宿泊費単価	シングル	7,000
	ダブル	14,000
	ツイン	15,000
稼働率（注）	（％）	55%
宿泊費（年間）		650,430,000
宿泊者食事代（朝食＋夕食）	単価	5,000
宿泊者食事支出額（年間）		130,487,500
（宿泊者の半数がホテルのレストランで食事をする想定）		
宿泊客以外のレストラン利用者	1日（昼、夜、人）	50
	単価	3,000
宿泊客以外のレストラン利用額（年間）		54,750,000
レストラン売上高合計		185,237,500
土産物販売額（@1,000円、10人/日）		3,650,000
エステ	単価	10,000
エステ利用者	1日（人）	30
エステ利用額		109,500,000
ホテルが提供するサービス合計		948,817,500

注. ホテル稼働率は観光庁「宿泊旅行統計調査報告」の尾道市における平成22年の四半期毎ホテル平均稼働率による年ベース平均55.35%を参考に想定。

（4）産業別に見た経済波及効果

新たにホテルを建設した場合の経済波及効果を産業別にみた合計額は図表9の通りであり、「建設業」や「サービス業」、「製造業」、「金融・保険・不動産業」、「商業」等を中心に波及している。

(図表 9) 産業別のホテルを建設した場合の産業別経済波及効果

(単位：百万円)

分類 NO	産業項目	生産誘発額			合計
		直接効果	一次効果	二次効果	
01	農林水産業	0.0	18.9	16.7	35.6
02	鉱業	0.0	3.5	0.3	3.8
03	製造業	220.0	560.9	91.9	872.8
04	建設業	3,400.0	34.6	16.5	3,451.1
05	電力・ガス・水道業	215.5	85.0	55.5	356.0
06	商業	0.0	257.2	162.2	419.4
07	金融・保険・不動産	16.8	198.5	453.3	668.6
08	運輸	0.0	242.7	77.1	319.8
09	情報通信	0.0	107.3	79.6	186.9
10	公務	0.0	2.8	4.0	6.8
11	サービス	948.8	451.7	315.8	1,716.3
12	分類不明・その他	0.0	38.2	9.3	47.5
合 計		4,801.1	2,001.3	1,282.2	8,084.6

5. おわりに

「ツール・ド・しまなみ」開催による経済波及効果は、平成23年6月6日の尾道サイクリング協会総会で、尾道大学サイクリング部長で小谷ゼミ生である西岡君が発表し、地元新聞や地元ケーブルテレビ会社で取り上げられるなど、大きな反響を呼んだ。

大会2日間の経済波及効果8億円のうち、地元尾道で消費される部分の経済波及効果は7億円と約9割を占め、尾道の宿泊施設そして飲食店やお土産店はすごく潤うと考えられる。

また、今回の経済波及効果算出が「ツール・ド・しまなみ」開催実現の起爆剤となり、東京マラソンのように、毎年恒例で開催されるようになれば、しまなみ海道がサイクリストの聖地になり、全国からの参加選手は増えていくであろうし、そして、普段でもしまなみ海道をぶらりと走ってみたいという人が、市民を含めもっと増えると思う。将来的には、「ツール・ド・しまなみ」開催の経済波及効果8億円は、5倍にも10倍に膨らんでいくことが期待される。

新ホテル建設については、「しまなみアイランドライド」開催時には、尾道市内の宿泊施設では参加者を収容できないのは事実であるが、ホテルが建設されると、他のホテルの利用客が減少してしまうことも考えられ、近い将来の建設実現の可能性については高くないと思われる。しかし、日本一の「しまなみサイクリング道路」の知名度向上や、NHK連続テレビドラマ「てっぺん」の放映効果、そして東日本大震災に伴う観光業の西高東低現象などに

<参考文献>

- [1] (株)おきぎん経済研究所 (2011)「「ツール・ド・おきなわ2010」の県内経済へのインパクト」
- [2] 尾道市 (2010)『統計おのみち 平成22年 (2010年) 版』尾道市政策企画課
- [3] 国土交通省 観光庁 (2010)「宿泊旅行統計調査報告」
- [4] 広島県 (2005)「平成17年広島県産業連関表経済波及効果分析ツール」
広島県地域振興部統計課 (2000)「よくわかる産業連関表 平成7年広島県産業連関表～そのしくみと使い方～」
- [5] (財)ひょうご経済研究所 (2006)「「のじぎく兵庫国体」・「のじぎく兵庫大会」経済波及効果の推計」
- [6] 原田宗彦 (2002)『スポーツイベントの経済学 メガイベントとホームチームが都市を変える』平凡社
- [7] 深道春男・川野恭輔 (2009)「大分国体等開催による地域経済波及効果の推計」『大分大学経済論集』所収
- [8] 山口経済研究所 (2011)「下関海響マラソン2010の経済効果」